

竹田

広報



岡藩城下町400年祭

Taketa Public Relations

特集・市政と市民活動をつなぐ

『総合まちづくりセンター』始動



岡藩城下町400年祭メインテーマ

船村徹「サンチャゴの鐘」 7/11(水) 全国一斉発売!

竹田市の国指定重要文化財・銅鐘「サンチャゴの鐘」を歌にした船村徹先生作曲の叙情演歌「サンチャゴの鐘」のCDが、いよいよ今月11日(水)に全国一斉発売されます。音源の記録保存で収録した本物の鐘の音もアレンジされた永久保存盤。市民の皆様の応援をよろしくお願いします。



城あとに ひとり登れば
ふるさとの 町はたそがれ
栗色の髪に 生まれて
かくれ住む 女を愛した
サンチャゴの サンチャゴの 鐘のある町



7

2012

No.88



岡藩城下町400年祭

岡藩城下町400年祭トピックス

全国初となるキリシタンベル成分分析報告

「サンチャゴの鐘」は国内産の可能性

別府大学文化財研究所により国指定重要文化財「銅鐘」について、化学的な調査や成分分析が行われてきました。分析の結果、X線照射により、鐘の推定される化学組成の値は、銅87%、錫8%、鉛3%、鉄2%であることが判明しました。

平尾良光別府大学教授によれば、「当時国内の鉛の量は不足しており、タイから輸入していた鉛の量は、全体の25%を占めていたことから、西日本の鉱山で採掘された材料とタイ産の鉛を混ぜて国内で製造された可能性が高い」とのことでありました。

国内に4つしか確認されていない同型の鐘。今回の調査・研究においては製造地の特定までには至りませんでした。全国初の有意義な取り組みとなりました。

「竹田の象徴を歌詞の中に…」

叙情演歌「サンチャゴの鐘」こぼれ話

昭和47年、当時まちおこしの活動をしていた後藤貞夫さん（竹田市出身・イベント司会業）は、竹田のPRになる歌づくりに取り組んでいました。

仕事を通じて親交のあった作曲家船村徹先生夫妻が別府へ来られた際に、竹田へご案内したことがきっかけとなり、船村先生が再び竹田を訪れ、その後「サンチャゴの鐘」が生まれました。

歌詞は作詞家の横井弘先生に依頼。「地名はいらない。竹田の象徴である“トンネル”を歌のどこかで使ってほしいとお願いした」と、当時の思い出を語る後藤さん。実際に3番の歌詞に“トンネル”が採用されています。船村先生に認められた心意気は、叙情演歌「サンチャゴの鐘」誕生へと導いてくれたのです。



↑船村徹先生の自筆による「サンチャゴの鐘」の譜面を竹田市に寄贈してくれました



↑25年前、運命の日。中央が船村先生。右が片瀬さん。（竹田市立歴史資料館）

船村徹「パラインの華」

竹田の歌がまたひとつ誕生

「サンチャゴの鐘」のカップリングとして収められている「パラインの華」は竹田キリシタンをテーマにした船村徹先生作曲の名曲です（パラインとは天国）。

作詞は別府市在住の片瀬みつよさん。喫茶・スナックを経営する傍ら、書道家として教室の指導もされるなど、現在もご活躍中です。また、船村徹先生との付き合いもあり、「片瀬みつよ」の名前も先生に付けていただきました

1987年8月27日、竹田を訪れた師と仰ぐ船村先生がぼつり。

「豊後にはすばらしいキリシタン遺跡があるのに歌がないんだよね」

この言葉を耳にした片瀬さんの血のにじむような挑戦がここから始まりました。

以来、先生の元に竹田キリシタンをテーマにした作品をひたすら届けて25年。この度船村先生が曲を付けてくれてCD化。ようやく陽の目を見ることになりました。

「感動する詞が書けた時には、きつと曲をつけてくださるといふ私には先生に対する一筋の信頼がありました」と喜びを語る片瀬みつよさん。思いの込められた歌詞をじっくりとお聞きください。



↑片瀬みつよさん

- 岡藩城下町400年祭トピックス……2
- 姉妹自治体交流表彰(総務大臣賞)を受賞……3
- 特集・市政と市民活動をつなぐ!
「総合まちづくりセンター」が始動……4
- ミステリアス! 竹田キリシタン②……6
- 6月議会「一般会計補正予算」……9
- 今なぜ全国の注目を集めているのか?
PHP 嚶鳴塾 in 竹田「温泉と地域づくり」……10
- 監査公表……12

別冊 たけたん情報

7月のこよみ・TCT情報 ほか

- TAKETAN FACE 今月のひと
(佐田美子)……13
- 竹田かわら版 TOWN TOPICS
……14
- 輝け! 竹田の星……16
- 保健だより/食育レシピ……17
- たけたんアンテナ
大雨や集中豪雨に備えましょう/竹田
雑感/パート・クロツインゲンのコーナー
/生き生き興起……18
- 今月のイントロダクション
ほくたち・私たちの学び舎(竹田小学
校)/まるごと博物館②/図書館のお
しらせ7月/フクサン/誕生おめでとう
……20
- 市長コラム「有由有縁」第36回
……22
- 岡城遺産⑫ 中川久恒……23
- 郷土の植物⑧/すくすく1歳……24

人口のうごき

(前月比)

人口	24,629 人	(- 19人)
男性	11,481 人	(- 12人)
女性	13,148 人	(- 7人)
世帯数	10,558世帯	(+ 10世帯)
住民基本台帳登録人数 (平成24年5月31日現在)		

全国で3市

姉妹自治体交流表彰(総務大臣賞)を受賞



↑福田昭夫総務大臣政務官(前列左から3人目)とともに受賞団体(横須賀市、釜石市、竹田市)や関係者で行った記念撮影

国境を越えた思いやりの心

第6回姉妹自治体交流表彰(総務大臣賞)を竹田市が受賞し、首藤市長が表彰式(6月1日・東京都)に出席しました。

この賞は総務省と財団法人自治体国際化協会が主催、創意工夫に富み、地域振興に資する国際的な取組を表彰する制度です。

東日本大震災の折、ドイツ・バートクロツインゲン市やタバルト市からの支援を仙台市に届けるなど、復興の橋渡し役を演じた本市の取組みが高く評価され、全国3団体の1つとして受賞したものです。

「これまでの草の根交流の成果が、あの窮状においても発揮されたことが何より嬉しい。同時に受賞した団体が(同じ嚶鳴協議会参加団体の)釜石市であることにも縁を感じます」首藤市長の喜びの言葉です。

グローバルな視点でローカルを強化する取組にさらなる追い風が吹いてきたようです。

全国に向け先進事例を発表

表彰式終了後、会場を変更し、受賞3団体による事例発表会が一般部門・横須賀市、震災部門・釜石市、竹田市の順に行われました。

全国から駆けつけた国際交流関係者約120人を前に、竹田市の姉妹交流担当課である総務課の熊谷芳浩係長が交流事例を発表しました。



↑受賞団体による事例発表

『総合まちづくりセンター』始動

「農村商社わかば」、「竹田市経済活性化促進協議会」に続き、今回新たに第3のフロート（母船を支える補助船）となる『総合まちづくりセンター』が7月1日にスタートすることになりました。

官民の組織力を結集する

竹田市では、TOP懇談会で市民のみなさまから寄せられた貴重なご意見とご要望から、『4つのフロート構想』の実現化に取り組んでまいりました。

この度の「総合まちづくりセンター」は、その3番目のフロートにあたり、本年7月1日付けで2名体制（嘱託職員1名、職員1名）により市役所内に発足します。

岡藩初代藩主である「中川秀成公」とその妻虎姫。この歴史が生んだ縁で、先般、石川県金沢市で活動する歴史研究愛好会「加賀藩百万石・百万歩の会」の方々が金沢市長の親書を持参し、来竹されました（市報6月号をご参照ください）。金沢市との文化を基軸とした今後の交流が楽しみです。これは民

間の地域おこしグループの橋渡しにより、実現したものです。

竹田市にはこのような内外に誇れるすばらしい民間の調査研究グループや市民団体が、様々な分野において活発な活動を行っています。

アイデアの実現過程における課題を限られた組織や人脈の中だけで解決しようとする、革新的なアイデアでも平凡な形に収縮するものです。

行政と民間組織の力を結集し、その方向性が定まってくると、アイデアは一つのプロジェクトとなり、そして新たな「政策」に繋がることでしょう。

フロートとは？

母船が傾かないように横に取り付けられ、母船を支える役目をするのがフロートです。したがって、母船を竹田

市政とするならば、「総合まちづくりセンター」はフロートの役目を果たして、市政を側面から支えることとなります。

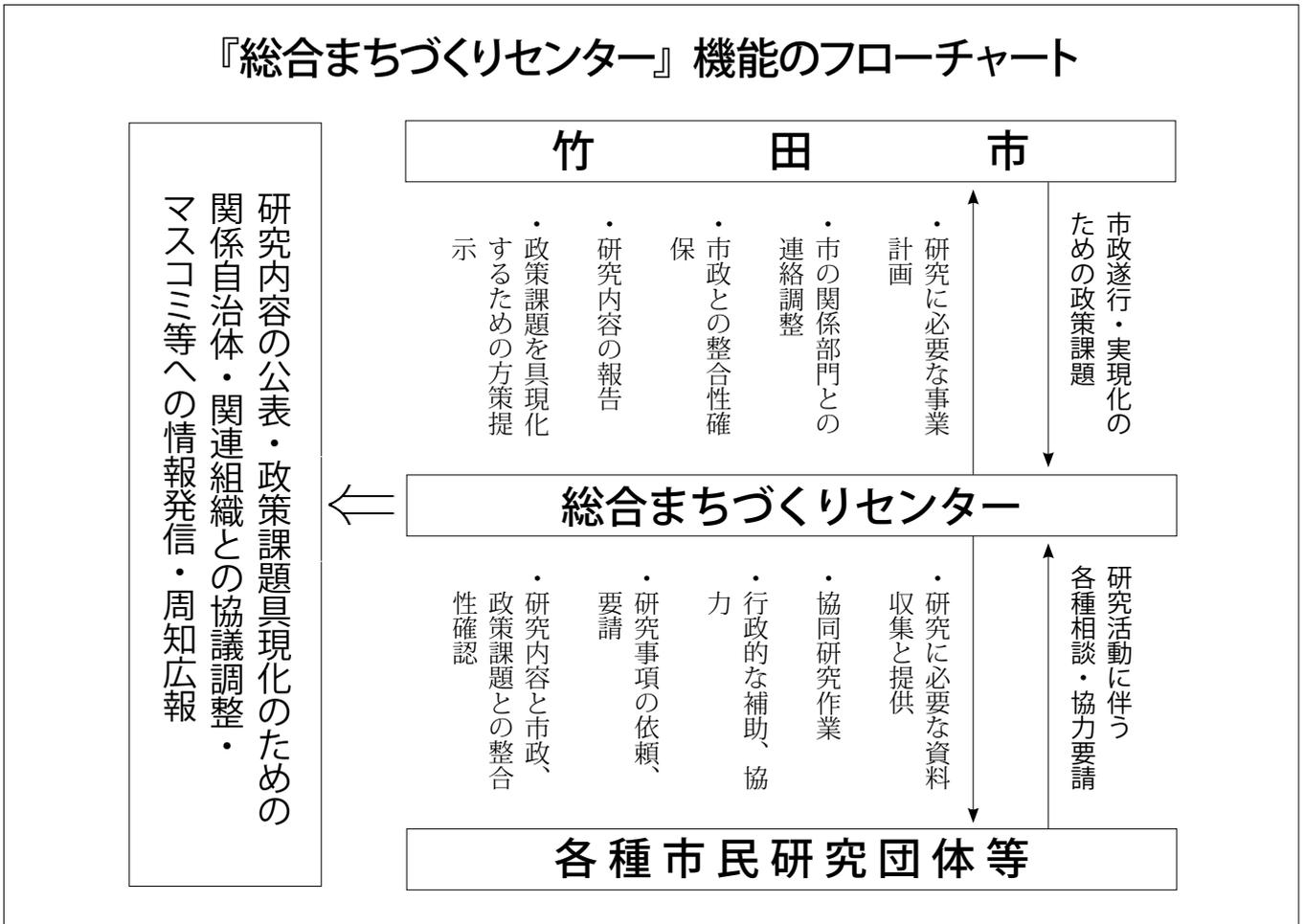
竹田市内にある民間の調査・研究グループは活動が活発であり、その能力はとも高いものを有しています。今回発足する「総合まちづくりセンター」は、それらのエネルギーを一つに束ねる役割を担いながら、竹田市政という母船が安定した航海ができるための原動力へと変えていく任務を背負っています。

具体的な業務は？

当面は、市長の特命により、これまでに取り組んだことのない分野として、歴史にちなんだ兵庫県朝来市との城郭を通じた交流、サンチャゴの鐘とキリシタン文化の研究、竹工芸作家誘致などのTSG（竹田総合学院）の実践等を予定しています。当面は歴史・文化の蓄積の活用と文化力を活かした地域の魅力づくり、そのミッションを達成



『総合まちづくりセンター』機能のフローチャート



以前にあった『竹田研究所』との違いは？

「竹田研究所」の場合、そこに携わっていた団体と研究内容そのものは、今と同じように活発であり、素晴らしい研究成果を残しました。

しかし、それらは必ずしも市が目指していたものと一致していたとは言えません。しかも、「研究」から「実践」へと移行ができない分野が多かったことも事実です。

そこで、今回は市長からの特命に基づき、市政と市民活動をつなぐことを第一に考え、かつ、あくまでも「研究」から始めて「実践」までを行い、目に見える成果を残すことを主眼に置いています。

したいと考えています。
市政と市民活動をつなぐ新たな取り組みです。市民の皆様のご理解と一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

「総合まちづくりセンター」の事務室は、市役所2階の真ん中にあります！

竹田市役所
本庁舎
2階



↑
ココ

〒 878-8555 竹田市大字会々 1650 番地 竹田市役所 総合まちづくりセンター
☎ 0974-63-1111(内線291) FAX0974-63-0995 E-mail : soumachif3@city.taketa.lg.jp

昨年の秋、ふと立ち寄った久戸にある名も無い稲荷を見て大いに驚いた。その形が或る物に非常によく似ていたからだ。或る物とは殿町にあるキリシタン洞窟礼拝堂である。その稲荷はノミで五角形に、かつ芸術的に掘られていた。上には長方形の掘り込み、五角形の斜辺に沿って掘られたいくつもの丸い穴、祭壇のような二段の掘り込みと、その神秘的な美しさに思わず見とれながらも疑問が湧いた。「なぜ、稲荷なのにわざわざ岩を掘る必要があったのだらうか」と。

土地所有者に連絡が取れたので、稲荷の経緯を聞いてみた。すると、意外な答えが返ってきた。「自分が知らないうちにいつの間にか稲荷になっていた。誰が稲荷にしたのかわからない。こどもの頃から実に美しい形の洞窟だ

とは思っていたが、少なくとも15年ほど前(平成9年頃)までは絶対に稲荷ではなかった。」というものだった。

久戸は、中川秀成公が竹田に入封の際、大阪摂津茨木時代からの家臣の多くを住ませた所であり、キリシタンとなった者も多くいた。そこで、あくまでも推測の域を出ないが、この稲荷は本来、キリシタンの礼拝堂ではなかったかとの思いが頭をよぎった。

これに関連して昭和39年発行の「キリシタン遺物の研究」(竹村 覚著)では、殿町第二礼拝堂や別の洞窟の存在を指摘しており、これらを「洞窟礼拝堂と思われる」と著述している。また、日本を代表する著名なキリシタン研究家である大学教授にこの稲荷の写真を送ったところ、「殿町の洞窟礼拝堂と酷似している。おそらく、元和年

間の初期に掘られたものである」という見解(キリシタン礼拝堂とは断定していない)であった。

その後、城下町にある稲荷を片っ端から訪ね歩いたところ、他にも久戸稲荷とよく似た稲荷の存在を何箇所も確認すると同時に、多数の洞窟の存在も知った。祭壇のような掘り込みがあるもの、左右に部屋を持つもの、枠をはめ込んでいた形跡があるもの、左右に丸太を固定したと思われる穴を持つもの、殿町洞窟礼拝堂のように横に司祭館跡を思わせる大きな洞窟と泉が湧き出る洞窟もあった。

地図に印をつけていくと、その数は城下町だけで大小合わせて100箇所を超える。滑瀬橋から岡城大手門に至るU字カーブの途中にも二箇所あることも興味深い。これに豊岡、玉来、岡



↑城北町と濁淵をつなぐ市道トンネル。上辺部分に五角形の斜辺に沿って掘られた形跡があり、中ほどの左手に祭壇らしきものが残っている

ミステリアス! 竹田キリシタン ②

城下町を取り巻く

「稲荷」と「洞窟」の謎

竹田のキリシタン文化を語る上で基軸となるのはキリシタンベル「サンチャゴの鐘」であるが、謎に包まれた「聖ヤコブの石像」も先月号で紹介した。今月号は竹田の城下町に数多く存在する「稲荷」と「洞窟」の謎を探る。

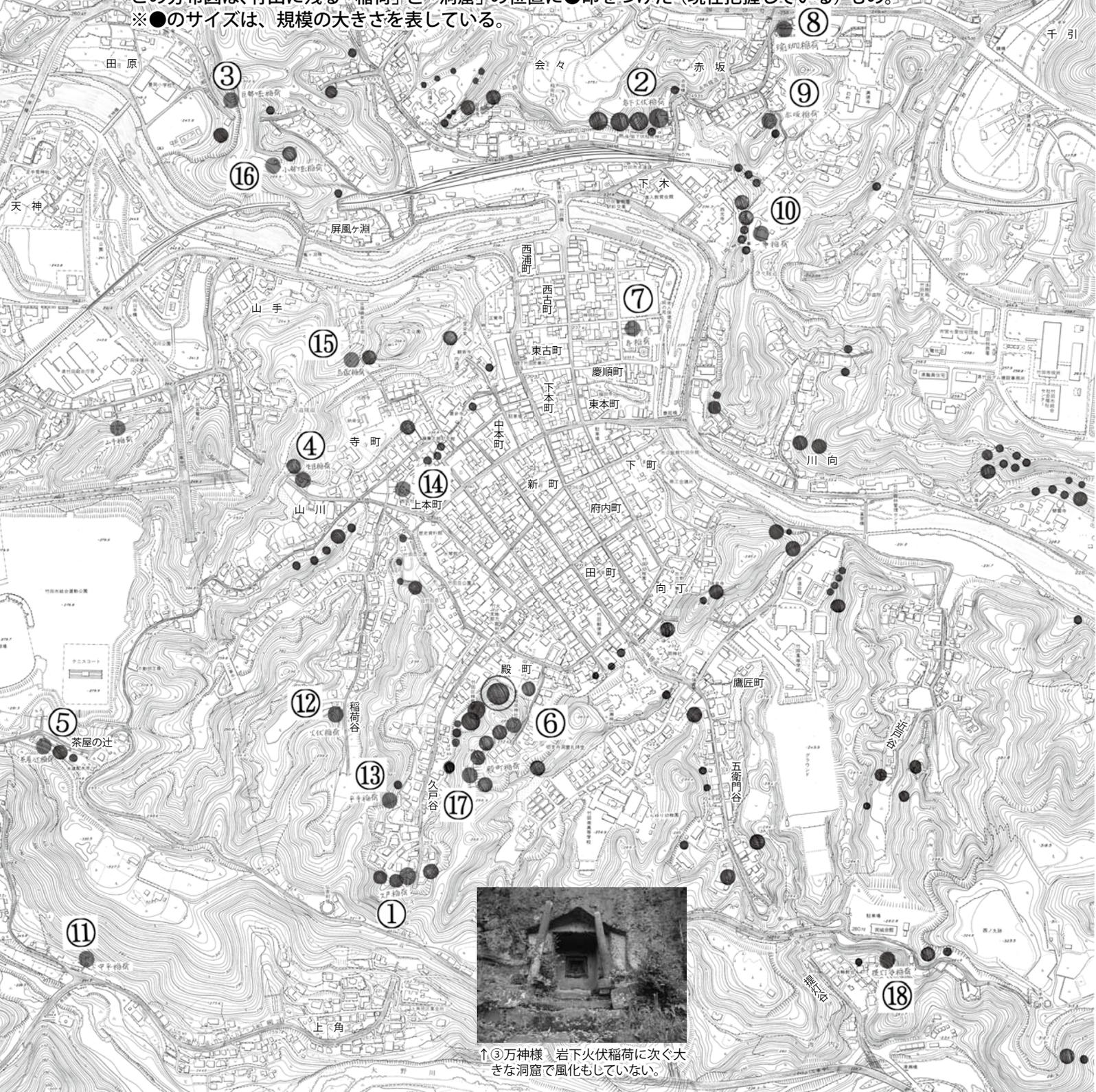
本、明治などを入れると、この数値は飛躍的に跳ね上がる。いったい、誰が何のために掘ったのであろうか。ちなみに、これらを防空壕だと言う話はよく聞かすが、以前から存在していたので、防空壕としても使用したという方が適切ではなからうか。

竹田には最も多い時期で1万5千人以上のキリシタンがいたとされている。そうであれば、その数に見合った礼拝堂があっても不思議ではない。しかし、この稲荷に限らずキリシタンに関する文献や資料はほとんど存在しないため、残念ながらこれらを礼拝堂跡と断定することはできない。それでも、これらの洞窟は見てみるとサンチャゴの鐘やヤコブ石像のようにキリシタンへの夢とロマンを掻き立ててくれる。正にミステリアスである。

竹田の城下町に残る「稲荷」と「洞窟」の分布図

この分布図は、竹田に残る「稲荷」と「洞窟」の位置に●印をつけた（現在把握している）もの。

※●のサイズは、規模の大きさを表している。



↑③万神様 岩下火伏稲荷に次ぐ大きな洞窟で風化もしていない。



↑②岩下火伏稲荷 豊後竹田駅裏(下木)の火伏稲荷。明治元年に祀られている。城下町では最大規模の洞窟跡。



↑①久戸稲荷 正面上にある30cm×70cm程の掘り込みには何があったのだろうか。

竹田の城下町に残る主な「稲荷」と「洞窟」

①久戸稲荷 (久戸)	⑩一事稲荷 (下木)
②岩下火伏稲荷 (下木)	⑪中平稲荷 (上角西)
③万神様 (田原)	⑫火伏稲荷 (溝川)
④生目稲荷 (山川)	⑬平手稲荷 (久戸)
⑤茶屋の辻稲荷 (茶屋の辻)	⑭西の宮社・洞窟跡 (?) (上本町)
⑥キリシタン洞窟礼拝堂 (殿町)	⑮烏嶽稲荷 (寺町)
⑦寿稲荷 (慶順町)	⑯小勢ヶ岳稲荷 (屏風ヶ淵)
⑧瑜珈稲荷 (赤坂)	⑰殿町稲荷 (殿町)
⑨赤坂稲荷 (赤坂)	⑱提灯谷稲荷 (提灯谷)

竹田市推薦図書

「ザビエルコード」 全国で好評発売中

大坂落城の際、豊臣家馬印の百成瓢箪を携えて逃走した紅毛碧眼の切支丹、上笠五兵衛なる人物を描く歴史ロマン「ザビエルコード」(eブックランド社/甲山堅・著)。

本年岡藩城下町 400 年祭を記念し、竹田市推薦図書として全国書店にて発売中です。ストーリーは明治以来、著者が三代に亘り受け継いだ伝承を基に執筆されています。

甲山氏は「古文書や謎の切支丹遺物をジグソーパズルのように詰め合わせ、浮かびあがってくる仮説をお示した。ミステリー的な要素を楽しんでもらいたい」と語ってくれました。



「甲山堅」は祖父(甲山)、父(堅)の名前の文字を組み合わせたペンネーム。本籍は竹田市。1953年大阪生まれ。早稲田大学卒。

↑「竹田市は岡城を筆頭に興味深いものがありすぎる」と話す甲山氏



← 1980年にイスラエルで発見された墓(写真右) 週刊「歴史のミステリー」No.1(株式会社デアゴスティーニ・ジャパン社/2012年6月5日発行)より写真左が、市内の寺にある墓石

イエスの墓と竹田にある墓石

アメリカのあるテレビ局は、1980年にイスラエルで発見された墓がイエスの墓である可能性が高いと指摘した。

市内の寺にある墓石にイエスの墓に似たような「矢印」と「丸印」が刻まれたもの(写真左)がある。市内の墓石は没年が宝永年間(1704~1711年)となっている。

もし、この時にマークを彫るよう指示した人が、イエスの墓のマークを知っていた上で似たようなものを彫らせたとなれば、海外ではやっと1980年に発見されたものが、竹田では既に1700年代の初頭に知られていたこととなり、かなり興味深いことである。いったい、誰がこれを彫らせたのだろうか。単なる偶然なのか。南蛮人宣教師の影がちらつく。九州の山の中でありながら『竹田』は、なんとミステリアスな部分の多いところか。

「聖ヤコブ」の石像

発見のきっかけとなった野球ボールが持ち主の元へ!



←「聖ヤコブ」の石像 昭和36年、岡城周辺でキャッチボールで遊んでいた兄弟によって偶然発見された



今年5月30日、石像が発見された現場で、調査を兼ねて草刈作業をしていた市職員が石の下に埋もれていたその「野球ボール」を発見しました。

当時、その少年だった廣瀬陸熙さんは、親の代から御神体として「聖ヤコブ」の石像を長年大事に管理してきました。無くしたはずのボールを約51年ぶりに手にして、「間違いない」と大きく頷いた廣瀬さん。

「あの頃を思い出すね。昔は「遊ぶ」と言ってもキャッチボールくらいしか、他にすることが無かった。ボールが逸れるたびに兄弟で必死に追っかけ、崖の下に落としては何度も探しに行っていたんだよ」と、嬉しそうに当時の思い出を語ってくれました。

『第66回瀧廉太郎記念全日本高等学校音楽コンクール』の運営を支援する個人ボランティアを募集しています

- 応募資格** (1)申込単位は個人(1名)または複数名で申込みを受付けます
 (2)9月下旬のボランティア説明会に参加できる方
 (3)活動日現在、中学校3年生以上の方(※高校生以下の方は、保護者の同意が必要)
 (4)活動日に指定の場所・時間で、活動が可能なお方(活動は長時間にわたり、会場内外を移動する活動となります)
 (5)その他、主催者が定めるボランティア参加の注意事項を厳守し、活動できる方
- 応募方法** (1)申込書に必要事項を記入のうえ、下記宛てに持参または郵送してください。(FAX不可)
 〒878-0024 竹田市大字玉来1番地1 竹田市文化会館内 瀧廉太郎記念音楽祭実行委員会 宛
 (2)募集要項、申込書は竹田市ホームページよりダウンロードできます。(PDF版)

受付期間 平成24年8月20日(月)から9月14日(金)必着
●お問い合わせ 瀧廉太郎記念音楽祭実行委員会 ☎0974-63-2734

ピンチをチャンスに変える施策

竹田市議会第2回定例会において、本年度の一般会計補正予算（第1号）が可決、歳入歳出ともに1億228万9千円が増額されました。

岡藩城下町400年祭をさらにグレードアップする事業や農業振興を図る制度の構築、周辺地域のまちづくりの基本構想や基本計画策定に係る事業など、逆境を好機と捉える施策についてお知らせします。

企業誘致の条件整備

祖峰企画の進出に伴う旧祖峰中学校グラウンドへの進入路開設工事で発生した残土の処理費として、833万7千円を計上しました。

また、川崎重工業が寄付した土地約40ヘクタール（直入町）の有効活用を図るため、土地の模型作製費として100万円を計上しました。

新たな農業振興

農家や農産加工所がいくらずばらしい農産物や農産加工品を生産しても、販路を確立しておかなければ売上にはつながりません。

竹田市農産物・農産加工品流通対策事業補助金1300万円によって、カボスや豊後牛、振興野菜などの流通をスムーズにし、新たな農産加工品の開発やパッケージデザインの作成を行います。

あわせて6次産業化（注）の

支援対策費として400万円を計上しました。

また、就農前や就農初期の青年就農者を支援する青年就農給付金事業を大幅に拡大し、1人あたり150万円の給付金を14人分増額計上しています。

さらに農地集積や農業の競争力・体質強化を図るため経営転換協力金（50万円×3戸分）を新規計上しました。

この給付金、協力金は全額県補助金として歳入にも同額計上されました。

周辺部の市街地活性化

荻地域まちづくり懇話会（佐藤富士夫会長）が提言した「荻支所の移転、跡地の有効活用」などに関して、荻地域中心市街地活性化事業により、基本構想および基本設計を策定する委託料として、500万円を計上しました。

荻地域の未来像を描く計画が他の周辺地域に波及し、地域振興につながることを期待されています。

災害に強いまちづくり

国の社会資本整備総合交付金を活用した災害防除事業（瀬の口線）は、測量調査により工事

注）6次産業化とは？

6次産業とは、90年代半ばに現東京大学名誉教授の今村奈良臣氏が提唱した造語。

1次産業+2次産業+3次産業=6次産業という考えに基づき、農林漁業（1次産業）の従事者による「製造・加工」（2次産業）や「卸・小売・観光」（3次産業）への取り組みが新たな付加価値の創造や農林漁業、農山漁業の活性化につながることを（6次産業化）と提唱しました。

当初は足し算の発想でしたが、1次産業が衰退してゼロになっては「6次産業化」が成り立たないことや、寄せ集めではなく有機的・総合的結合が必要なことを強調するため、【1次産業×2次産業×3次産業=6次産業】と再提唱しています。

ひびけサンチャゴの鐘

9月28日の川端康成記念講演会を皮切りに、岡藩城下町400年祭のメイン行事が30日までの3日間にわたり開催されます。

中でも「サンチャゴの鐘のお披露目」イベントには、すでに多くの関心が寄せられており、鐘の音と楽曲披露が行われる会場が、市内外からの観衆で埋め尽くされることが予想されています。

その際、行われる詩の朗読や先人顕彰漫画本やパンフレットの作成費用として、768万1千円を計上しました。



→注目を浴びる「サンチャゴの鐘」。音源収録会場には多くのメディアが訪れました（5月9日大分市「OBSメディア21」）

注目を集めているのか?

目指す『竹田市』の先進的取り組み



地方から
げんきになる
のじゃよ

竹田市湯治外務大臣→

PHP 嘜鳴塾 in 竹田

「温泉と地域づくり」開催

5月25日から26日の2日間にわたり、PHP 嘜鳴塾 in 竹田「温泉と地域づくり」が開催され、全国各地より多くの方が参加されました。シンポジウムを通じて、竹田市の先進的な取り組みである「温泉療養保健制度」の事例紹介が行われ、その後、参加者は実際の現場を視察しました。

1日目は、大庭一夫環境省大臣官房参事官による講演が行われ、日本の温泉地の歴史を紐解きながら湯治文化について説明し、「多様化するニーズに対応するため、国民保養温泉地制度（※図1）も見直されてきている。国民保養温泉地として大きく飛躍することを願っている」と述べました。

続いて、長湯温泉で温泉地療法を研究する伊藤医院の伊藤恭医院長から、その効果について発表がありました。（※図2）

伊藤先生 「生活習慣病は血液機能に障害をもたらし、脳梗塞や心筋梗塞等様々な病気の原因になる。長湯の温泉に入ると血液機能が改善されることが期待される。また、行動変容・転地療養等、生活習慣改善に向けた多様な要素が総合的に含まれているのが温泉地療法である。竹田市は温泉だけでなく、豊かな森林や水資源、歴史・文化

にも恵まれている。森林から放出されるフィトンチッドという物質を浴びると、緊張が取れ血圧が下がり、また、河川はマイナスイオンを発生させ、小川のせせらぎの音を聞くと爽快感が得られる。このような健康資源は、地域資源であり、経済資源ともなる。こういった可能性を含んでいるのが温泉地療法であり、我々の住んでいる温泉地である」



↑長湯温泉の効果について説明する伊藤先生



↑パネルディスカッションの様子

そもそも国民保養温泉地って？

保健休養に重要な役割を果たす温泉地について、歓楽化を防ぎ、国民の健全な保健休養の場としての役割が十分果たされるよう育成するために環境大臣が指定する地域。昭和29年から指定開始。選定には所定の基準がある。（※図1参照）

図1

国民保養温泉地選定標準（現行）	
第1 温泉の効能、湧出量および温度に関する条件	1. 泉効が顕著であること。 2. 湧出量が豊富であること。 3. 利用上適当な温度を有すること。
第2 温泉地の環境に関する条件	1. 環境衛生的条件が良好であること。 2. 附近一帯の景観が佳良であること。 3. 温泉気候学的に休養地として適していること。 4. 適切な医療施設および休養施設を有するかまたは将来施設し得ること。 5. 医学的立場から適正な温泉利用、健康管理について指導を行う顧問医が設置されていること。 6. 交通が比較的便利であるかまたは便利になる可能性のあること。 7. 災害に対し安全であること。



↑大庭環境省大臣官房参事官



今、なぜ全国の

『日本一の国民保養温泉地を

← 2年目に入った「温泉療養保健システム」実証実験

自分たちが子どもたちにどうい社会を残していくのか？

その後のパネルディスカッションでは、林商工観光課長より「温泉療養保健制度」の概要説明と、第3ステージまでの実績報告および関連して展開される健康プログラムの開発や健康グルメなどの取り組みについても紹介がありました。それを受け、各パネリストからは、

「温泉地としてのブランド化、温泉を核にした地域づくりを考えていかなければならない」（布山裕一・日本温泉協会事務局長）

「取り組んだ結果をきちんとデータに残していくことが大事。データを蓄積し、プロモーションすることが追い風を呼ぶ」（後藤康彰・日本温泉財団温泉医科学研究所主任研究員）

「食・運動・温泉、トータルの施策としてこれだけ取り組んでいるところはあまりなく、いかに魅力的にアピールしていくかが重要」（野添ちかこ・温泉と宿のライター）

「自分たちが子どもたちにどうい社会を残していくのか？理念の問題。日本文化というものを活かした公共的な政策を創造していかなければならぬときであり、そういう意味で竹田市の取り組みには大変期待しており、失敗させてはならないと思う」（合田純人・NPO法人健康と温泉フォーラム常任理事）

2日目は、首藤勝次市長により『日本一の国民保養温泉地を目指す』というテーマのもと「温泉療養保健制度」が立ち上がった背景とその理念について講演がありました。

首藤市長「昭和初期に寒村から世界を目指した先人たちから受け継がれてきたストーリーを背景に、『日本一の国民保養温泉地を目指す』という理念が生まれ、その理念のもとに「温泉療養保健制度」が立ち上がった。今、国は理念を見失ってしまっている。良い理論ほど実践的なものはない」という言葉に尽きるが、温泉療養保健制度が市民権を得られるよう今後とも国に働きかけていきたい」

今回、全国からこれだけ多くの参加があったことは、各地域共に医療・介護・健康に関する課題を多く抱えている裏返しであり、国の動きを見極め、自らの地域の方向性を探るため、竹田市の先進的な取り組みの中にヒントを見出そうとするものです。

温泉を核とした素晴らしい地域資源を有し、日本一の国民保養温泉地を目指すことのできるステージを与えられた私たちが、この取り組みを実現させ、地方から日本を元気にしていかなければなりません。



↑現場を視察する参加者のみなさん

図2

長湯温泉の効果	
皮膚血流の変化	温度の違いによっても血流は増えるが、炭酸が含まれているとより血流が増加する。 炭酸泉に入った時は3分ちょっとぐらいで血行促進効果がある。
心拍量の変化	末梢血管抵抗が下がり、心臓にかかる負担が軽くなって心臓から多くの血液が流れるようになる。
筋肉と皮膚の酸素量の増加	筋肉酸素量増加：リハビリやスポーツの疲労回復に有効。 皮膚酸素量増加：エステ効果。メタケイ酸が豊富に含まれていて皮膚の潤いにも作用する。
皮膚の表面温度	末梢の欠陥が拡張して心臓から送り出される血液の量が増え、温熱効果がある。

監査公表

竹田市監査委員
村上 長生
同
中村 憲史

地方自治法第199条の規定に基づき、平成24年2月から平成24年5月までの各月において、市長部局及び教育委員会の監査を実施したので、その結果をお知らせします。

■総務課・行政改革推進室

公共施設の指定管理については、これまでのあり方を十分に検証して、再検討されるとともに、事業内容による契約期間等についても十分な協議検討を行うよう要望する。

■組織機構改革をはじめ、定員

管理計画、及び事務事業評価などの行財政改革に引き続き取組まれるよう要望する。

■企画情報課

農村回帰推進やTOP懇談会及びエコミュージアム構想などの取組を市民協働で、真に潤いのある街づくりとなるよう、併せて地域振興や文化振興事業の企画に取組まれるよう要望する。

■ケーブルネットワークセンター

竹田市の情報発信基地として、市政や行事をはじめ、地域

に密着したきめ細やかな情報を引き続き提供していただくよう要望する。

ケーブルテレビ放送サービス使用料については、未納が無い健全な運営を要望する。

■消防本部

市民の安全安心な生活にえられるよう、火災や救急業務の的確、迅速な対応を引き続き要望する。併せて予防業務に努めていただくよう要望する。

■人権・同和対策課

人権教育・啓発基本計画に沿った諸施策を講じて「人権を尊重するまちづくり」に引き続き取り組んでいただくよう要望する。

住宅新築資金等償還金の収納対策については、引き続き取組まれるよう要望する。

■図書館

子供から高齢者までの幅広い年齢層の方が気軽に利用できる、親しみやすい図書館にしていただくよう要望する。また、図書購入にあたっては、要望にこたえる図書を揃えていただくよう、併せて要望する。

新図書館建築にあたっては、機能性や利便性の考慮をいただき、併せて文化遺産ゾーンのシンボルとなる仕様を研究いただきながら、歴史的文化的遺産がある城下町にふさわしい建築をしていただくよう要望する。

■財政援助団体

竹田市が財政的援助を行っている団体から6団体を抽出し、補助金等が交付目的に従って適切に処理されているかについて監査を行った。

それぞれの団体における事業計画等については、精力的に取組まれているが引き続き十分な精査を行い、地域への波及効果が図られるよう要望する。

救急活動協力者に感謝状

今年3月14日、竹田市内の

中学校で会議中に51歳の男性が突然意識をなくしました。

傷病者に呼吸がなかったため、4名が協力して消防署に通報すると同時に心肺蘇生法を開始し、同施設に設置さ



↑【協力者】赤嶺照明様、志水輝昭様（※表彰式欠席）、佐藤恭二様、野尻孝二様

れているAEDを使用し電気ショックなどを行い、一命を取りとめました。

これは、救急講習を受講したことによる「心停止の早期認識と通報」、AEDを使用した「一次救命処置」、呼吸も脈拍も再開した状態で救急隊、医師へ引継ぎ、「二次救命処置」と心拍再開後の集中治療」という救命の連鎖が途切れることなく行われた事例です。

日頃から突然の事故に備え、救急講習の受講や訓練等を実施してきた功績を称え、竹田市消防署は協力者4名を表彰いたしました。

新教育委員に小代京子さん

岩屋庄二教育委員が退任され、平成24年6月7日付で新たに小代京子さん（直入町榎屋）が就任されました。任期は平成



↑小代京子さん

28年6月6日まで。

「今の子どもたちにもこのように、田舎で過ごす良さや楽しさ、豊かさをいっぱいに味わって育ってほしい。そのことが故郷を愛する人間に育つのではないかと思います。竹田の子どもたちが幸せ感をいっぱいに持って育ちますよう、これからいろいろなところに目を向けていきたいと思えます。」

（本会議・教育委員選任の挨拶より）

大分県食生活改善推進協議会の 「名誉会員」として表彰

竹田市食生活改善推進協議会竹田支部（しらゆり会）

佐田 美子（92歳・久小野）

佐田美子さんは、『食生活改善』や『食文化継承の担い手』として長きに渡り、地域の健康づくりにご尽力されました。その功労を称え、全国食生活改善推進員団体連絡協議会（北村壽子会長）より、名誉会員として表彰されました。

バランスの良い食生活やカルシウムの摂取を積極的に実践してきた佐田さんは、「この歳になっても元気でいられることに感謝している」と、今回の表彰を喜んでいきます。

これまでの活動で一番印象に残ったことは、食糧難の時代に自分たちの住む宮砥地域で立ち上げた『野菊の会』でパン釜を作り、近所の子どもたちにパンを焼いてあげたらすごく喜んで食

べてくれたこと。食を通して生まれた絆は、忘れることのできない大切な思い出です。最近の楽しみは、寝たきりになってしまった70〜80歳代の方々を訪問し、話し相手になることだそうです。今後は、食生活でこれまで勉強させてもらったことを生かし、自分のできる活動を続けていきたいと話しています。佐田さんの経験から私たちが学ぶことは多い。

「地域の方々との交流が（こころとからだ、そして脳の）健康を保つ秘訣。とにかく人と話すこと、会話が大切です」佐田さんの思いが後輩たちに受け継がれながら、会の活動が継続し、ますます発展されることを願っています。



↑「健康のために大切な要素は『食事』、『運動』、『会話』です」と佐田さん



↑「名誉会員」表彰のお祝いに駆けつけた後輩のみなさん



↑45年前の「野菊の会」のみなさん。子どもたちとパン釜でパンを焼いて食べた思い出とともに



60年目の「友情をつなぐ光」

竹田小が「第60回友情の蛍おくり」

昭和28（1953）年、当時の明治小と大分市聾哑施設『あけぼの寮』の間ではたるの交流がスタート。平成21（2009）年竹田小・明治小が統合したあとも交流は引き継がれ、今年で60年目を迎えました。

6月16日、竹田小学校（堀治士校長）の6年生26名が大分市の盲児施設清明学園・ろうあ児施設あけぼの学園を訪問し、ほたる600匹を贈りました。『友情』の光がいつまでも輝き続けることを祈っています。

☆第47回「ほたるおくり」

6月14日、南部小学校（河野



↑施設の子どもたちに蛍を手渡す竹田小の児童たち



↑ほたるを手渡す南部小の児童たち



↑第1回「蛍おくり」 当時の明治小学校の児童たち

啓士校長）の6年生42名が別府市の国立別府重度障害者センターを訪れ、この日までに採ったほたると、手作りのステンドアートや「詩」などの記念品を入所者に届けました。



↑ 供養塔前で行われた追悼式

今年で18回目となる「南河内ほたる祭り」。あいにくの天気の中、例年に劣らず元気に開催されました。

会場では餅まきや抽選会など、訪れた方みんな楽しんで催しや、子どもたちがエノハの掴み取りに挑戦しました。

今年も地域を元気にする美しい明かりが灯りました。



地域に“元気”の明かりを灯す

「西南戦争竹田戦」戦没者追悼式ならびに追悼講演会開催

5月26日、日本最後の内戦と言われる西南戦争の激戦地であった、竹田市茶屋の辻（茶屋の辻自治会館敷地内供養塔前）にて、死者1,000人とされる戦没者の追悼式が行われました。

関係者や地元の住民のみならず約30人が参列。竹田における西南の役追悼講演会実行委員会を代表して仲村睦雄会長は供養塔の前で追悼の言葉を捧げました。

会場を竹田市総合社会福祉センター多目的ホールに移し、大分県埋蔵文化財センターの高橋信武氏を講師に招き、西南戦争竹田戦の真実を広く知っていただくための『竹田における西南の役追悼講演会』が開催されました。



「第41回全国消防救助技術大会」に出場する後藤健介・古澤淳士（竹田消防署）

5月25日開催の「第34回大分県消防救助技術大会」【ロープブリッジ渡過の部】で優勝の後藤健介消防士と、【はしご登はんの部】で優勝の古澤淳士消防士の2人が「第41回全国消防救

助技術大会」（8/7・東京都）に出場します。

後藤消防士は「竹田市の代表として大分県の代表として、訓練した成果を発揮したいと思います。また、共に訓練をし、県大会で涙をのんだ同僚の思いを背負い精一杯頑張ります」

古澤消防士は「全国大会では大分県、竹田市の代表として自分の力を精一杯出してきました。自分の力だけではここまで来られません。周りの仲間や上司に支えられて全国大会へ行けることを忘れずに、上位入賞を目指します」と、力強く意気込みを語ってくれました。全国大会での活躍を期待しています！



第2部では竹田高校器楽部とジョイント演奏

国際人 廣瀬武夫を偲ぶコンサート開催

5月27日、岡藩城下町400年祭事業「国際人廣瀬武夫を偲ぶコンサート」が竹田市文化会館で行われました。陸上自衛隊西部方面音楽隊によるすばらしい優雅な演奏



↑陸上自衛隊西部方面音楽隊の演奏

公演中、大ホールの壁には廣瀬武夫の貴重な写真や資料が映し出されました。コンサートを通じ、故郷が生んだ偉人の功績を偲びました。

に詰めかけた満員の聴衆は思わずうっとり。また、第2部では竹田高校器楽部とのジョイントで、ポプスを中心とした演奏を披露し、会場からは大きな拍手が送られました。

紙人作家・

富永嘉子先生を訪ねて

TSG受講生が山口市で研修



↑「千々松・徳地手漉和紙工房」も視察

竹田総合学院(TSG)「紙人講座」の受講生6人が、講師の紙人作家・富永嘉子先生を訪ねて山口県山口市で研修を行いました。

一行は「歩々・紙人の家」を訪れ展示形態等を学び、原料の徳地和紙の産地を視察した後、富永先生宅で紙人の作成時のコツや動きの付け方などの指導を受けました。

今後は市内での作品展示を目指し、月2回勉強会を行っていきます。



イーネ! 田植え体験

竹田イーネカルチャー 2012

6月3日、エコミュージアム事業「竹田イーネカルチャー2012」として、稲作の価値を次世代につないでいこうと、稲の手植え体験が荻町鳴田地区の棚田で行われました。

ジュニアリーダーセミナーの市内小学生、APUの留学生、東京からの参加者ほか約60名が参加。参加者たちは冷んやりとしたヌルヌルの泥に素足で入り、稲を植える作業に楽しそうに取り組んでいました。

清掃しながら健康づくりに取り組む「ゴミフ大会」が5月30日に竹田、豊岡、玉来地区にて開催されました。大会には550人が参加。ごみの量はトータルで355kg(可燃ごみ210kg、不燃ごみ125kg、資源ごみ20kg)が集まりました。また、「ごみゼロおおい作戦功労者表彰」受賞報告も併せて行われました。



30年目の『ゴミフ』!



看護の心をみんなの心に

看護週間行事の一環として「高校生1日看護体験」が5月22日、竹田医師会病院、加藤病院、大久保病院で行われました。竹田医師会病院では竹田南高校の生徒14名が看護師や介護福祉士の仕事を学び、貴重な体験をしました。(写真は、療養者の足浴や手浴を体験する生徒たち)



↑吉弘央さん



↑下城詩織里さん、里桜ちゃん(左)

6月8日、「平成24年度よい歯コンクール」が竹田市総合社会福祉センターで行われました。審査結果は次のとおりです。

【高齢者の部門】
最優秀賞・吉弘央(80歳・山手) / 優秀賞・渡部信子(81歳・下志土知) / 最高齢者賞・石井ツユ子(84歳・飛田川田原)

※最優秀賞の吉弘さんは市代表として県の書類審査を受けます。

【母と子の部門】
最優秀賞・下城詩織里、里桜(桜町栄) / 優秀賞・萩本亜紀、侑己(下田)

※最優秀賞の下城さん親子は、7月7日の県大会に竹田市代表として出場します。(敬称略)



たけ た こうこうさんがくぶ
竹田高校山岳部

①北信越かがやき総体(新潟インターハイ) 登山定規大会(8/7～11・新潟県湯沢町苗場山系)に出場。

「今年は4人も3年生。先輩から受け継いできたチーム力はどこにも負けない自信がある。上位入賞をめざして頑張ります」(河村元太男子主将)

「兄の影響ではじめたクライミング競技。自分自身に負けないよう全力を尽くします」(一宮未晴女子主将)

出場選手〔男子隊〕 河村元太(3年)、衛藤史弥(3年)、赤城舜(3年)、若杉耀介(3年)(上写真前列左から) **〔女子隊〕** 一宮未晴(3年)、國廣愛理(3年)、古嶋天(2年)、吉岡里紗(2年)(上写真後列左から)

②第55回全九州高等学校登山競技大会(7/6～9・くじゅう山系)に出場。

「優勝めざして頑張ります！」(日小田直樹くん)

出場選手〔男子隊〕 日小田直輝、立川拓弥、畑篤史、高橋智史(全員2年生)(上写真後列左5人目から) **〔女子隊〕** は①とメンバー同じ。①・②とも敬称略



↑[写真左から] 芦刈裕都、後藤愛子、十時百合香、志賀なつき、原山富紀、合澤夕貴、深田琴美(全員3年生・敬称略)

たけ た こうこうきゅうどうぶ
竹田高校弓道部

平成24年度全九州高等学校体育大会・第58回全九州高等学校弓道競技大会団体、個人の部(7/14・15・熊本市)に出場。

「自分たちの弓道ができるように、自分たちの空気を作り出して、優勝めざして頑張りたい！」(志賀なつき主将)

「竹高の名に恥じないように全力で頑張りたい」(個人の部出場・深田琴美さん)



↑深田琴美さん



↑菅洋平くん

かん ようへい
菅 陽平 くん(竹田高校3年)

インターハイ(平成24年度全国高等学校総合体育大会・アーチェリー競技)(8/4～6・新潟県燕市)に出場。

「これまで指導してくださった先生方に感謝しています。自分のペースを崩さずに頑張りたい。めざすのは、当然ナンバーワンです！」



この夏、全国大会・九州大会に出場する方々をご紹介します。市民のみなさんの熱い応援をお願いします！

竹田から頂点をめざす



↑[写真左から] 島田蒼也(3年)、原田隆弘(3年)、一宮未晴(3年)、吉岡里紗(2年) 敬称略

東日本大震災復興支援平成24年度国民体育大会(ぎふ清流国体)第32回九州ブロック大会(7/20～22・沖縄県那覇市)クライミング競技(男子・女子)に竹田高校山岳部が出場。

「日本代表選出の我が校先輩の一宮さんに刺激を受けて、必ずや国体に出場できるように、いい結果を残したい」(島田蒼也くん)

たけ た み な み こうこうしんぶんぶ
竹田南高校新聞部

「第36回全国高等学校総合文化祭」全国高総文祭とやま2012(8/8～12・富山県高岡市)に参加。今年で29回目の出場となります。

「みんなと協力しながら自分たちなりの新聞を作りたいと思う」と語る森直弘部長。

全国大会では、各都道府県の新聞部代表が一堂に集まり、いくつかのコース取材をもとに交流新聞の作成に取り組みます。

一方、学校では伝統ある「新聞部」に今年もフレッシュなメンバーが結集。新生「新聞部」による第1号発行に向けて、ただいま日夜奮闘中です。



↑井上由貴(1年)、工藤健太郎(1年)、森直弘(2年)(写真左から)敬称略

保健
だより
健康一直線

熱中症対策の鍵は「予防」

今年も猛暑が予想されています。「熱中症」から身を守るため、早めの対処が死に至る危険を防ぎます。

熱中症の約4割が高齢者、乳幼児、少年が14%を占める

熱中症とは高温多湿な環境の中で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体内の体温調整機能がうまく働かないことで発症する障害の総称で死に至る可能性のある病態です。

消防庁の平成20～22年の7～9月の

3か月間における「熱中症」による救急搬送者は8万9885名。そのうち高齢者が44%、乳幼児・少年（7～18歳）が約14%を占めており、「熱中症」で亡くなられた方は全国で230名です。

こんな時はためらわずに救急車を呼びましょう！

○自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、動けない場合
○意識がない（おかしい）、全身のけいれんがあるなどの症状を発見された方は、ためらわずに救急車を呼んでください。

でください。

◆熱中症予防のポイント

- ・室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。
- ・のどが渇かなくてもこまめに水分補給を心掛けましょう。運動の前に1杯（200ml）と、「休憩」と「水分補給」は30分に1回が目安です。
- ・外出の際は体をしめつけられない涼しい服装で、日よけ対策もしましょう。
- ・無理をせず、適度に休憩をとりましょう。

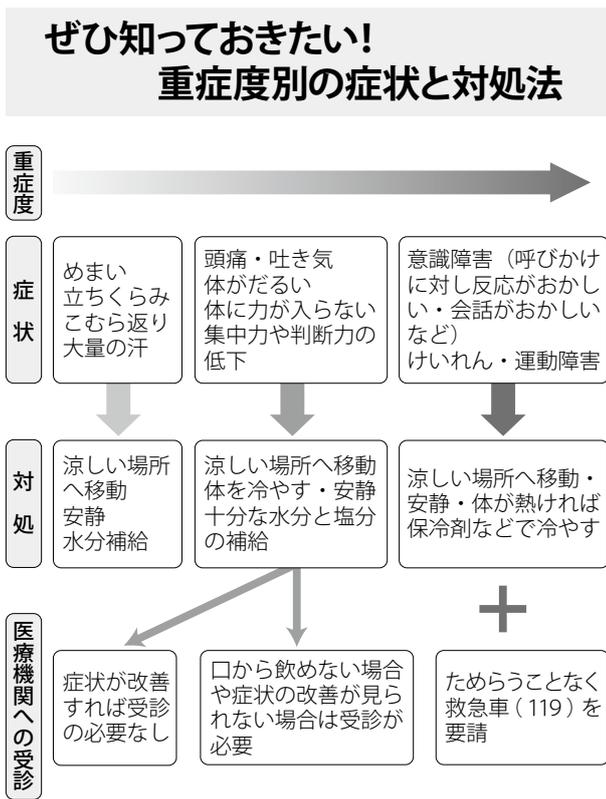
・日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりに心掛けましょう。

●お問い合わせ 竹田市健康増進課

☎63-4810



夏の軽装運動「クール・ビズ」も効果的です



夏バテ予防の食事

◎1日3食、できるだけ決まった時間に摂ることが基本

◎良質のタンパク質を積極的に摂る

◎冷たいものを摂り過ぎない

※豚肉やうなぎ、カボス、麦ごはん等を積極的に摂る（ビタミンB、クエン酸）

家庭で作れる水分補給飲料

- ・水 700ml
- ・トマトジュース（無塩）
- ・砂糖 40g
- ・塩 小さじ1/2

今月の食育レシピ もずくのすまし汁

健診が始まりました。また、夏までに体重を落としたいと思っている方も多いのではないのでしょうか？そんなとき、ミネラルや食物繊維が豊富で低カロリーな海藻類をうまく献立に取り入れるといいですよ。今回は梅干しを加えて、クエン酸の補給にもよい一品です。

〈材料〉4人分

もずく	100g
焼き麩	12個
だし汁	500cc
梅干し	2個
しょうゆ	小さじ1
コーン（冷凍）	40g
小ネギ	2本
おろし生姜	小さじ1/2

作り方

1. もずくはざるに上げる。焼き麩は水で戻ししぼる。梅干しは種と実を分け、実は小さくちぎる。
2. 鍋にだし汁を張り、梅干しの種を入れて火にかけて調味料を加える。
3. もずくとコーンを加えて沸騰直前に火を止め、刻んだネギをちらし、おろし生姜と梅干しを盛る。

7月2日は「竹田市防災の日」

大雨や集中豪雨に備えましょう

大雨や台風による風水害や土砂災害等が発生しやすい時期を迎えています。

また、突然の集中豪雨やゲリラ豪雨などに見舞われる可能性もありますので、日頃から次のことに心がけましょう。

非常用品を備えておきましょう

緊急避難時に携行する「非常持出品（水・懐中電灯・ラジオなど）」と、災害後の生活を支える「非常備蓄品（非常食品・



↑6月4日に行われた防災パトロール

生活用品・応急薬品など」をリュックなどの持ちやすい状態で準備しておきましょう。

自分を守る想定訓練を

市内で土砂災害や水害などが起こる可能性のある場所や避難所の位置を表示した「防災マップ」を確認しましょう。自宅周辺の危険箇所や自宅から避難所までの安全な避難経路を日頃から確認、想定訓練をしておきましょう。

危険を感じたら速やかに避難を

避難勧告や避難指示が発表されていなくても、災害が起こりそうな状況に気がついたり、身に危険を感じた時は、早めに自主的に避難してください。避難された場合は市役所までご連絡ください。

避難するときには、近所の幼児や高齢者、障がい者などの災害時要援護者に配慮しましょう。避難にあたっては、慎重に行動

最新の気象情報などに注意して、万一来に備えましょう。

- ・テレビ、ラジオ、インターネット
- ・土砂災害危険度情報 <http://sabo.pref.oita.jp/dosya/>
- ・雨量・水位観測情報 <http://river.pref.oita.jp/>
[携帯サイト] <http://river.pref.oita.jp/mobile/>

※県民安全・安心メール <http://www.bousai-oita.jp/>【登録サイト】

県内の災害情報（気象警報、地震情報、土砂災害警戒情報等）が携帯に届きます。（ただし、メールの受信料は個人負担となりますので、ご注意ください）

してください。

●お問い合わせ

行政係

竹田市総務課

☎63-1111（内線213）

竹田雑感

景観研究の立場から

31

東京大学助教 福島 秀哉

私は2012年の1月から東京大学の景観研究室のスタッフとなりました。景観工学、中でも街路や広場などの公共空間のデザインと、それを契機としたまちづくりを専門としています。

くれた高校生、その話を飲みながら聞いてうれしそうな顔をする市の職員の方々など、素敵な人達との出会いもあり、一日で竹田のファンになりました。

着任後間もない2012年2月に、竹田のシンポジウムに先立って、東京工業大学の桑子先生らと一緒に、市の方々の案内で、白水ダム、岡城、城下町、久住高原などを見させて頂くという貴重な経験をさせて頂きました。駆け足でまわったにも関わらず、竹田の持つ地域資源の豊富さに驚きました。人々が生活の中で土地に刻んできた農村地域の歴史の奥深さ、人が心地よく暮らせる城下町のスケール感、神話が地形と一体となって立ち現れてくるような久住高原から見た神秘的な風景など、この土地にしか存在しない感動に満ちあふれていました。

まちづくりに携わってきた経験から、まちづくりの成果が目に見えるまでには時間がかかるため、その日まで自分達の取り組みと、自分達が住むまちの力を信じて、じつと踏ん張る長い期間が必要であり、それには相応な覚悟がいることを学んできました。しかし、この竹田のまちづくりでは、これだけの風景が、歴史が、こんな素敵な人達の背中を押してくれるのだと思

い、何とも頼もしく感じました。そんな思いを見透かしたように、その日の夜楽しいお酒を飲んで、これからの竹田の未来を楽しみに思いながら宿へと帰る途中の道で、当初からまちづくりに携わってきた研究室の教授が「竹田は良いだろう」と自慢げに、うれしそうに話しかけてきました。これが竹田に関わるみんなの思いなのだろうなど感じた、初めての竹田の夜でした。

さらに調査を兼ねて城下町を散策していた私たち東大のメンバーに対して、遠くの商店の横から大きな声で挨拶をして

くれた高校生、その話を飲みながら聞いてうれしそうな顔をする市の職員の方々など、素敵な人達との出会いもあり、一日で竹田のファンになりました。

【市税は納期内納付を】
 市税は市民の皆様が安心して健康な暮らしをするため重要な役割を担っています。福祉や教育、道路整備等さまざまな事業を進める上で非常に重要な財源です。市民の皆様には市税の重要性をご理解いただき、納期内

【口座振替をご利用ください】
 必ず納めてくださいますようお願いいたします。税務課では税負担の公平性を確保するため、今後も高い収納目標を設定し、収納率の向上に努めていきます。

●お問い合わせ 竹田市税務課
 係 63-1111
 (内線121-122-129)

竹田市税務課から市税の納付について(お願い)

バート・クロツインゲン市の中心にある17世紀に建てられた最も古いビルはリッチユギーハウスと呼ばれ、裕福な「リッチユギー家」が作った。2002年にリッチユギーハウスの地下室は市立博物館になった。長い歴史があるバート・クロツインゲン市(808年初めて市名が古文書で表れた)の1200年前の状況について語る遺跡は、市内にある古代の墓地跡(5世紀〜8世紀)から発掘され、出展されている。その中には宝石が埋め込まれた金メッキのブローチの立派な副葬品もある。



↑どっちが勝つ?後藤伯照とシュワツコフカールが手作りの古代ローマゲームを楽しむ。(平成23年竹田中学生ドイツ派遣)

今年5月20日から、州の文化館を訪ねたとき、古代ローマのゲームに使う道具作りを体験した。

忙しくて納付に行けない方は口座振替が便利です。納期限に指定の預金口座から自動的に振替えができるので、忘れがたく、納付にかけ手間が省け非常に便利です。是非ご利用ください。



姉妹都市 ドイツバート・クロツインゲンコーナー

クラウディア・ケール
 A コラム by claudia kehl
 (国際交流員)



「石器時代」と「青銅器時代」

「バート・クロツインゲン市で歴史と触れ合う場所」
 ーバート・クロツインゲン市で歴史と触れ合う場所ー
 また、2009年から古代ローマの展示も開始され、バート・クロツインゲン市の周辺で発見された遺跡からは1800年前の日常生活を垣間見ることができ、昔の暮らしや遊びについての体験教室も開催している。

昨年、竹田市から中学生が博物館を訪ねたとき、古代ローマのゲームに使う道具作りを体験した。今年5月20日から、州の文化館を訪ねたとき、古代ローマのゲームに使う道具作りを体験した。



↑久住地域でのセミナーの様子

生き活き 興起
 厚生労働省パッケージ事業 あなたが開ける チャンスの扉!
生き活き興起雇用創出大作戦!
有償サービスによる暮らしのサポーター養成セミナー受講者募集!

【暮らしのサポートセンターとは?】

昔のような隣近所の関係が希薄になったり、核家族化や一人暮らしの人が増えたり…。特に超高齢化社会では、ちょっとした困りごとを相談したり手伝ってくれる人が、周囲にいないと感じている方が多いのではないのでしょうか?そんな時に同じ地域に住む住民が、ボランティアな地域内の支えあいを目的として、住民自身で作る「暮らしのサポートセンター」の立ち上げと、その担い手となる「暮らしのサポーター」の養成講座を現在開催しています。このほど久住地域で、実験的に子供から高齢者まで、誰でも立ち寄れる「寄り合い場」がオープンしました。今後、住民型有償サービスを実施する計画です。

【住民型有償サービスとは?】

高齢者やその家族、障害のある人、一人暮らし家庭など、住民であれば会員登録でだれでも利用でき、食事の支度、洗濯、掃除、買い物、話し相手、外出時の付き添いなどの

生活支援サービスを受けることのできる仕組みです。サービスを提供するのも地域住民という助け合い、支え合いが基本です。

【セミナー受講生募集!】

協議会では、この「有償サービスを提供できる暮らしのサポーター」を養成する目的で、以下のとおりセミナーを開催します。詳細については、7月にプログラムを全戸配布します。また、協議会のホームページでも掲載しています。

募集期間 7月1日(日)~13日(金)まで
セミナー開催期間 7月18日(水)~7月29日(日)
 5年後、10年後、きっとあなたの地域でも必要となる担い手や仕組みです。是非、参加してみませんか!

詳しくは、ホームページ <http://taketa-ikiiki.org> をご覧ください。

竹田市経済活性化促進協議会 ☎ 62-2122



伝統を引き継ぎ、 新たな竹田小学校へ

今月の学び舎 竹田小学校

竹田小学校は、全校児童143名、学級数7の竹田市内では大きい学校で、毎日子ども達の元気な声が飛び交っています。

さて、竹田小学校は、あの瀧廉太郎が幼少のころ過ごした学校です。瀧廉太郎の命日である6月29日には校内で「瀧祭」を行っています。瀧廉太郎の遺影に花を供え、ご冥福をお祈りした後、学年ごとに歌や合奏の発表を行います。「瀧祭」が近づくと元気な歌声や合奏が校舎内に響いてきます。

また、6月には大分の「あけぼの学園」「清明学園」への「蜚



↑楽聖瀧廉太郎を偲ぶ「瀧祭」(昨年の様子)

おくり」も行いました。全校児童で集めた蜚を6年生が送り届け、園生と楽しく交流をしました。7月には「蜚の里帰り」があり、園で育てた蜚の幼虫を園生が竹田小学校に持ってきます。全校で受け渡し式をし、蜚の幼虫をもといた川へ返し

ます。明治小学校から受け継がれてきた伝統行事ですが、このような環境に配慮した地道な取り組みを続けてきたことで60周年を迎えることができました。今後この「友情の蜚」の交流を大切にしていきます。

竹田小学校の最近の特色として、「協調学習」があげられます。



↑60年目を迎えた友情の「蜚おくり」



↑「協調学習」の様子

東京大学で研究されている新しい学習形態で、昨年度から本校もタイアップして取り組んでいます。「協調学習」では、初めに数人のグループで与えられた課題について話し合い、その結果を次の新たなグループで出し合い、それぞれの課題を統合して結論を導き出します。これにより、自分の考えや思いを伝え合い、学び合う子どもの育成をめざしています。

来年4月には岡本小学校と統合します。今年の「瀧祭」では、岡本小学校の全校児童による発表がありました。さらに、3年目を迎えるT授業(合同授業)やいろいろな行事を通して交流を深めています。お互いに仲良くなった子どもたちは、来年度の4月を心待ちにしているところです。

(渡邊 保隆)

まるごと博物館

(82)

動植物の調査、保護に教職員時代を含め40数年にわたり取り組んでいる。特にニホンカモシカが全滅の危機の時に山にこもり、その生態を研究し保護増殖のため資料をまとめている。それが、国の特別天然記念物指定に貢献し、「カモシカ博士」と呼ばれている。

竹田市姫岳小学校長として山口迪が赴任した昭和19年(1944)当時の祖母山ふもとでは、終戦前後の食糧難でカモシカが乱獲されている。このことがカモシカの保護と調査のきっかけとなり、休日を利用して山に登り植物を調べ、キャンプではカモシカの生息地を追跡し記録をする。



↑竹田高校講師の頃の山口先生 69歳



↑73歳の山口迪先生、地図を開いて



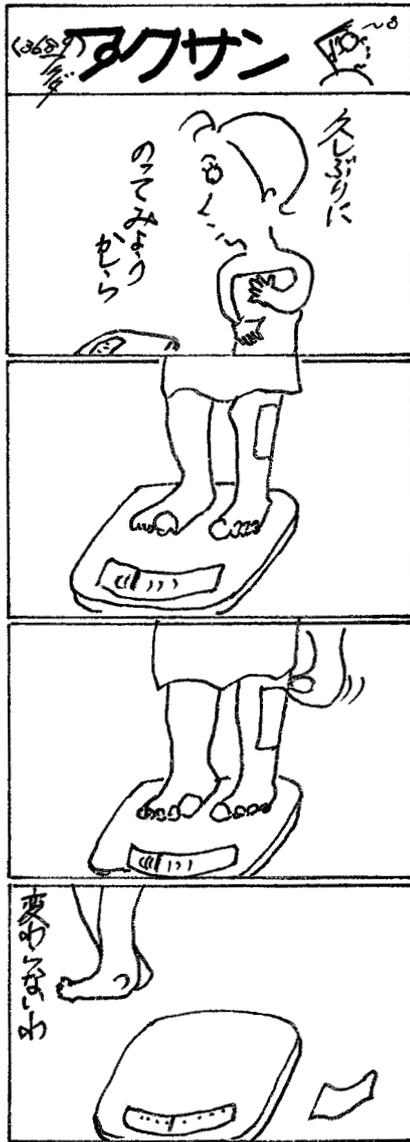
↑祖母・傾山系の地図を前に山口先生 76歳

たどる 山口 迪 -カモシカの調査で山に登ること千数回も-

昭和25年にこの調査結果をまとめ「祖母山の動植物考」を出し、県や市に祖母山系を自然保護を訴えている。カモシカの調査については、独自で行った定点観察の方法が、その後、祖母山系を訪れた学術調査団の学者から、正確さを含めて高い評価を受けている。エサや生活地、繁殖、分布域などを明らかにしている。植物ではキレンゲシヨウマヤウバダケニンジンなど珍しい種類の群生地を発見している。

祖母・傾山系の自然を愛し動物の保護と増殖に取り組み40数年、生態調査で千回以上山に登っている。1年間に延べ70日以上山ごもりをし、家族の人も姿が見えない時は山だろろうと達観していたという。原生林を守ることが保護の原点だと訴え続けている生輝である。市内三宅の出身で、明治39年生まれで、平成3年に85歳で生涯を閉じている。

(広田 敦)



新刊のご案内

【一般の本】

- ・新月譚 (文芸春秋) 貫井 徳郎
- ・わが母の記 (講談社) 井上 靖
- ・長嶋少年 (文芸春秋) ねじめ正一
- ・母の遺産—新聞小説— (中央公論新社) 水村 早苗
- ・美女の七光り (マガジンハウス) 林 真理子
- ・兼好さんの遺言 (小学館) 清川 妙
- ・MOCO'Sキッチン vol.3 (日本テレビ放送網) 速水もこみち
- ・もんぐらもんぐらいい季節になったもんだ (童話屋) 山村 暮鳥

【子どもの本】

- ・ブラックダイヤモンド1～3 (岩崎書店) 令丈ヒロ子
 - ・クレプスリー伝説4 (小学館) ダレン・シャン
 - ・おやゆびさん (鈴木出版) ひろかわ さえこ
 - ・わっしょいのはらむら (童話屋) くどう なおこ
 - ・きせつの手づくり図鑑 夏 (偕成社) 峯村 良子
- ほか 70冊ほど入りました

第15回 夏休み図書館まつり

「海の日」に楽しい図書館まつりを開催します！
大型紙芝居や大型えほん、ストーリーテリング、
ペープサートなど楽しさ満載！！

おみやげもあるよ。みんな来てね！

と き 7月16日(月) 13:00～15:00

と ころ 竹田市総合社会福祉センター大ホール

大人の本

「翔子」

(金澤翔子/角川マガジンス)

NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を手がけたダウン症の
人気若手書家 金澤翔子。折に触れて母親に伝えてきた魂
あふれる言葉の数々を「書」とともに紹介した心温まる本
です。勇気と光をあなたに…

司書のおすすめ

子どもの本

「ありがとう私のいのち—星野富弘詩画集—」

(星野富弘/学研パブリッシング)

体育教師だった星野さんは事故により手足の自由
を失いました。体の自由は失っても心の自由は失っ
ていなかった、生きていて良かった…。

いつまでも心に残り励ましてくれるすばらしい一
冊です。

「もっかい！」(エミリー・グラヴェッド/フレーベル館)

おやすみ前の絵本の時間にドラゴンのセドリックは
もう一度絵本を読んでもらおうとしましたが、ママが
先に寝てしまいました。「もっかい！」と大きな声でせ
がむのですが…。あら絵本のうしろに穴があいちゃっ
た！どうなっちゃったの？

今月の読み聞かせ

- ブックスタート 7月11日(水) 14:00～ (竹田市総合社会福祉センター)
- おはなしルーム 7月12日(木) 14:00～14:30 (南部幼稚園)
- おはなしルーム 7月18日(水) 13:20～14:00 (竹田幼稚園えほんのへや)
- おはなしのへや 毎週火曜日 10:30～11:00 (竹田市立図書館えほんのへや)

図書館のお知らせ



7月

■竹田市立図書館

TEL・FAX63-1048

■荻図書室(荻みらい館内)

TEL・FAX68-2200

■久住図書室

TEL76-0717・FAX76-0724

■直入図書室

TEL75-2240・FAX75-2231

7月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

※カレンダー中の白抜きの日が
休館日です。

16日(月)は 夏休み図書館まつり



誕生おめでとう

5月生まれ(親・自治会)

有由 有縁



市長コラム
〈第36回〉

有由有縁(ゆうゆううえん)

文豪川端康成が晩年、よく揮毫したのが『有由有縁』。人との出会いや物事との接点が生まれるのは、偶然ではなく、それなりの理由が働くからであるという意味。昭和27年、取材旅行を兼ね、友人高田力蔵の案内で竹田市を訪れ、竹田高校で講演した川端との縁は、まさに目には見えない力だけれど、神の配剤としか思えない。

奇跡的に舞い込んだ1枚の短冊

初夏の夕刻、定期的に音信のある首都圏の書店から胸の高鳴る朗報が届いた。「ある素封家がたくさんの短冊を世に放した」というものである。文学や歴史に造詣の深かった主人が長年にわたって蒐集したもののなのである。見せられたカタログには佐久間象山から森林太郎(鴈外)にいたるまで、多種多様なジャンルで活躍した著名人の短冊が登載されていた。あまりの数の多さに辟易しながらもページをめくっていると、見慣れた名前が目にとまった。土井晩翠である。

晩翠は言わずと知れた『荒城の月』の作者、仙台市が生んだ日本を代表する詩人であり、揮毫することも少なくなかったようだ。私も荒城の月をはじめ晩翠自身が作詩し揮毫した色紙を何度か目にすることがあった。

ところが、写真にあったその短冊の短歌に心が揺れた。それはこうだ。

『荒城の月をうたひしわかきゆめ
夢をつづけて我は猶生く』



→80歳まで生きた晩翠であったが、最近の調査で、この歌は73歳頃、妻を失くした寂しさの中で揮毫されたことが判明した。

すぐにわが竹田市ゆかりの瀧廉太郎と、そして土井晩翠の『縁』のことに思いはめぐる。世界的な名曲として歌い継がれている荒城の月の作詞者と作曲者の関係は意外に知られていないが、この短冊に晩翠が込めた想いが伝わってくるのである。心が揺れ続ける。

名曲「荒城の月」は、晩翠が東京音楽大学(いまの東京藝術大学)から中学唱歌の歌詞を依頼され作詞。同校がこの詞につける曲を公募し、瀧廉太郎の曲が採用されて世に出た。1901年、明治34年のことである。しかし、この時点では、まだ晩翠は廉太郎には会っていない。それでも、晩翠は完成された荒城の月を知り、日本にこんなにも優れた作曲家が育っていたのかと驚嘆し、そして喜んだと伝えられている。

さて。そんな2人であったが、たった一度だけ、つまり最初で最後の出会いを果たしているのだった。それは、廉太郎が留学先のライプティツヒに留学しながら、わずか2か月後に肺結核を発病。やむなく帰国の途にあったロンドン郊外のティルベリーという港であった。うわさを聞きつけた晩翠は幸運にもヨーロッパに遊学中だった。そして、神に導かれるようにして、晩翠は失意の中にあつた廉太郎を客船『若狭丸』に見舞うことができたのだ。

その日、2人は何を語り合ったのか、私たちには知るすべもないが、その時、あらためて晩

瀧廉太郎の心が帰るまち・竹田 110回忌瀧廉太郎追悼祭

命日(29日)を前にした6月24日、瀧廉太郎の歌をうたう会主催「110回忌追悼祭」が瀧廉太郎記念館の蔵で行われました。

瀧廉太郎像に献花や献歌に続き、テノール歌手・紀野洋孝さん(伴奏・福元千晴さん)が「納涼」を独唱、板井靖良さんがピアノ曲「憾」の独奏を捧げるなど、参加者一同はあらためて楽聖・瀧廉太郎を偲びました。

また、土井晩翠先生の短冊も記念館にて公開されました。



↑瀧廉太郎像に献花をするみなさん

翠は廉太郎の天才ぶりに敬服したようである。

しかし運命は非情だ。廉太郎は1年後に23歳の若さでこの世を去る。

嘆き悲しんだ晩翠は、廉太郎への惜別の情を禁じえず、しかし、ある決意をしたためた。それが、ここに紹介する晩翠直筆の短冊である。

「荒城の月を生んだ若き天才作曲家はこの世を去ったけれど、私は彼の夢に従ってなお生き続けていこう」と。

岡城遺産 12

四代藩主・中川久恒

「能」をこよなく愛した

ひさつね

久恒は、寛永18年(1641)父・久清と母・種の嫡子として江戸にて生まれました。明暦4年(1658)18才で岡山藩主松平光政(池田利隆の嫡子)の娘・佐阿と婚姻しました。寛文6年(1666)久清の隠居により家督を継承しました。

家督を相続した4月29日の直前4月7日には、竹田町は大火に見舞われました。殿町吉田邸の奉公人であった老女の部屋から出火し、御客屋があった田町、府内町、本町、上町の侍屋敷および町屋が焼失しました。本町出口で火は消し止めたので、古町は類焼を逃れたようです。翌年御客屋敷は寺町に移され再建されています。このため、寺町にあった正覚寺(現・御客屋敷周辺)は古町に、光西寺(現・千房整骨院周辺)と大安寺(現・マルシヨク駐車場周辺)は山川に移ることになりました。



↑四代藩主・中川久恒(碧雲寺蔵)

さらに、同10年(1670)には、古町でも火災が発生し侍屋敷9軒、町屋63軒が焼失しています。寛文11年には、七里蔵奉行宅からの出火で碧雲寺まで全焼しました。久恒は、江戸に居たため久清が西の丸から駆け付け指図をしています。幸いに本尊・御位牌等は持ち出し、御霊屋は無事であったようです。さらに、風水害による二の丸水の手石垣の復旧(寛文13)、西の丸新屋敷裏門の普請(延宝8)、領内の飢饉により岡藩の財政は窮乏状態となりました。このため、俸禄の削減、衣類・家具の節約、法事や婚礼の料理は一汁三菜、酒は九杯、肴は一種とすること、御茶やたばこを禁止することなど節約を申渡しています。困窮状態ではありながらも藩主久恒は、洪水時には船で往来していた玉来と竹田町を結ぶ阿蔵大橋を掛け、鑑返しから古町への川筋の細道を往来できる大道に改良等の交通網の整備をしています。

隠居した久清と藩主、それぞれの側近の間に溝がある状況下でありましたが、久清の死後、藩士の教育のため、貞享2年(1685)田中弘高に唐代に編纂された知識人や権力者としての心構えや権力を執るに当たっての訓戒などが記された「貞観政要」の講義をさせました。さらに、備前から関幸助(号・幸輔)を招き藩士の子弟の教育に当たらせました。岡藩における私塾の始まりとなります。

久恒は、元禄8年正月10日、江戸に向かう途中に持病の眩暈を発して、看病・投薬の効果なく6月15日、55歳で逝去しました。(佐伯 治)

竹田特命大使の廣道純さん

岡城のバリアフリー化を応援

車椅子マラソンランナーの廣道純さんは、竹田特命大使としても活躍してくれていますが、このほど、今年ロンドンで開催されるパラリンピックへの出場も決めました。

その廣道さんから「先日、岡城のエレベーター構想を新聞で読みましたが、大賛成です。大好きな岡城なのですが、私たちは城跡のある台地に登れないのが悔しくて仕方ないのです。是非、頑張って夢をかなえてください」とエールを送ってくれました。

廣道さんはOBSラジオに「廣道純のNever Give Up」という番組をもっているのですが、その番組で岡城のバリアフリー化を応援したいということで首藤市長をゲストに指名してくれました。

番組は7月21日の午後6時10分から20分間にわたり放送されることになっています。岡藩城下町400年祭のことや、船村徹先生がリメイクした『サンチャゴの鐘』も流れます。これをきっかけに、このCDが大分県から全国へとヒット街道まっしぐらとなるといいですね。そして、もちろん岡城のバリアフリー化が実現することを願いたいものです。





郷土の植物

(280)

阿孫 久見

第88回

マヤラン (ラン科)

ます。

低山地の林縁草地の腐植土に生育する高さ20センチほどの直立する多年草です。この植物は無葉緑で育つ腐生植物(生物の死体から養分をとる)です。地下茎は長太く多肉質で節がいくつもあります。

互生する全縁の葉は退化して万年筆のペン先のような形で薄い鞘状で、長さ1・5センチ幅が8ミリほどです。

真夏の頃、長い花柄の先にラン特有の形をした径3センチほどの白色に紅紫色の筋の入った6弁花を数個咲かせます。特に下の唇弁は、くさび形で長さが2センチほどで細長く感じ

ます。兵庫県の摩耶山で最初に発見されたので摩耶蘭の名があります。大分県では2001年に豊後大野市清川町で初めて確認されました。

ここ竹田では、産地極限で里山の林縁でごく稀に観察されますが、その年によって消長(生えたり生えなかつたり)が著しく神経質な植物で個体も少なく、筆者もめったに出会えません。

大分県の絶滅危惧種に新しく加えられました。花期は7月から8月です。

すくすく
1歳



平成23年7月生まれ

誕生日 親
(地区・自治会)



広報たけだ

No.88 平成24年7月1日発行 ■発行/竹田市役所 [URL] <http://www.city.taketa.oita.jp> E-mail taketata@city.taketa.lg.jp
■編集/総務課秘書広報係 〒878-8555 大分県竹田市大字会々1650 ☎63-1043 ■印刷/㈱双林社竹田支店

この広報紙は再生紙を使用しています。